

# 図書館だより

名古屋経済大学 図書館  
名古屋経済大学短期大学部

2007.11 Vol.54

Every extension of knowledge arises from making the conscious the unconscious.

## Library News

Our business in this world is not to succeed, but to continue to fail in good spirits.

## Library News

Library News  
What is done can't be undone.

contents

### 目次

### 特集 貴重本紹介

## 貴重本紹介シリーズ 6 シーボルト旧蔵 「日本植物図譜」コレクション Siebold's Florilegium of Japanese Plants



▲第一巻のうち「サクラ」。左下に川原慶賀の落款・印章がある。カラー図譜では最高技術の直接写真製版により原図の色彩をそのまま再現している。

江戸幕末期に長崎出島のオランダ商館の医官として着任したシーボルトは、日本に近代西洋医学を伝えた人物としてよく知られているが、同時に日本についての総合的な学術調査研究官でもあった。彼は日本滞在中に多くの自然物の標本の収集を行い、また出島出入りの絵師・川原慶賀に多数の動植物写生画を描かせた。当初、慶賀の絵は遠近法も立体感もない平面的なものであったが、シーボルト等の指導によって西欧風の描き方を

学び、次第に今日でもそのまま図鑑に使用できるような水準の高い写生画を描くまでになった。

1830年にオランダに戻ったシーボルトは、この慶賀の絵を土台として欧州の画家に植物図を描かせ、三大著作の一つとして「フローラ・ヤポニカ」(日本植物誌)を刊行したが、150図まで出版されたところで終わり、慶賀の描いた多数の植物図はそのまま埋もれていた。この慶賀とその他の人々の画業からなる1,000枚以上にも及ぶシーボルトの「日本植物図譜」コレクションが、サンクト・ペテルブルクのロシア科学アカデミー・コマロフ植物研究所に完全に保存されていることを知った丸善株式会社によって出版されたのが本書である。膨大なコレクションの全貌を初めて再現した本書の植物図は、植物学、科学史などから見て学術的に貴重であるだけでなく、優れた絵画としても楽しめる芸術品である。



▲モノクロ縮小写真と学名、記録等をコレクション全1041点分収めた第二巻。ほかに論文5編も掲載している。

随想	2
経営学部教授 日比野雅俊	
国内外の図書館	3
短期大学部教授 武田 康雄	
読書ガイド	4
経営学部教授 横山 光伯	
短期大学部講師 星野名生規	
法学部講師 萩原 聡央	
人間生活科学部教授 伊藤 利明	
学生コーナー	6
短期大学部 井畑有里絵	
経営学部 小松原ひとみ	
経済学部 光川 真司	
法学部 阿部 恭士	
図書館からのお知らせ	8



▲本書は原寸大のカラー図譜341図を掲載した第一巻(2分冊)、資料編の第二巻と和文解説書、全4冊より成る。



短期大学部 准教授  
酒巻 智子



## 老子と囲碁

経営学部 教授 日比野雅俊

『また碁の話しか』と受け取られる方も少なくないであろうが、なるほどと思わせる一文があったので紹介したい。加島祥造さんの『老子までの道』(2007、朝日文庫)の中に収められた「いま、なんで老子やね」という章からである。

加島さんは宇宙会議というものがあるなら、地球の代表者は老子がふさわしいという。その席で「地球にとって何が一番大切なことか」と問われたら、老子は「不争(争わず)」と答えるだろうという。老子は人間の争いがいかにも異常であり、過剰であって、それはタオ(道)のエネルギーのムダ遣いだと考える。それをするのは人間だけで、自然はそんな愚行をしない。だから「不争」こそが今の二十一世紀の世界にとって大切きまわる思想であり、それが「いま、なんで老子か」の答えになるという。加島さんは「もし世界がこの鮮明な二語を守れば世界の大きな諸問題、つまり飢餓や人口問題ばかりか、宗教間の憎しみさえ消えてゆき、地球上の人間は生き延びるだろう。それ以外に途はないかも知れない」ともいう。

加島さんはひと仕事終わると、碁が打ちたくなるという。相手は神奈川県近代文学館の館長の中野孝次さん。ある日、加島さんは館長室に入るとろくに挨拶も交わさず盤に向かう。対局は中野さんの大石が仕留められる形になり、あとは控えめに打てば勝てたものを、さらに欲を出したため中野さんの大石が生き返り、逆転負けとなる。加島さんはカッとするが、これは囲碁ではよくあることで、彼の胸中の察しがつく。カッとされたために冷静さを失い、2局目も3局目も大敗する。文学館を出たあとも悔しさからさらに中野さんを誘い、自宅で

4局目を打つ。今度は中野さんが欲張った結果、加島さんに勝利が駆け込む。中野さんは先の3勝の味を消したくないため、この1局で加島宅をあとにする。私のようなヘボ碁では常に経験することである。

加島さんはその夜、寝床の中で笑い出す。「争うな」「欲張るな」「貪るな」といった「道」の講演を日ごろしておきながら、碁ではその正反対のことをする。中野孝次さんも著『清貧の思想』の中で衣食の足りたあとの清閑な人生を説いているという。その「知足」を説く中野さんが碁ではひたむきに貪り、争いを仕掛けてくる。

しかし二人は道徳家でも宗教家でもないから、そんな矛盾を気にしてはいない。文士は四芸を楽しむ者と割り切っている。四芸とは琴棋書画で、琴は音楽、棋は碁のことである。琴や書や画作は清雅な遊びであるが、唐代中国人がこれに囲碁を加えたことに加島さんは感服する。というのも、「碁は闘争心や所有欲を盤上にむきだしにしてぶつけ合う殺伐としたゲーム」だからである。加島さんは「人間の中には闘争本能や所有本能が深く根を張っている。これを消せとか忘れろというのは無理。それより、この闘争本能を碁というゲームで発散させたらいい」という。囲碁仇という言葉があるが、カッとなくても仇を本気で殺すまでには至らない。そんな負け碁の内容も、しばらくすれば笑って話し合うことができる。争いは盤上だけ。2000年とも4000年ともいわれる歴史をもつ囲碁の大きな効用ではあるまいか。

東大教養学部では今年4月から囲碁を正規の課目として取り入れましたが、本学経営学部でも来年度より囲碁講座を開設する予定です。



短期大学部 教授 武田 康雄

## 海外(カナダ)語学研修提携校 ランガーラ・カレッジの新図書館

▼ランガーラ・カレッジ新図書館 外観



ランガーラ・カレッジの図書館 ([www.langara.bc.ca/library/](http://www.langara.bc.ca/library/)) は蔵書数約九万冊、AV 資料約三万点、その他六万六千点の定期刊行物に加え、一部インターネット経由での閲覧が可能な六万六千点ほどのデジタル資料を備えた地域開放型の図書館です。年間予算は、昨年実績の概数ですが、図書等購入費が七万ドル、設備費が二十三万二千ドル、人件費が一千八百万ドルとのことでした。年間利用者は昨年度実績で三十六万人余り。この数字は地域の人口減に伴い、一昨年に比べて四万人ほど減少しているとのことでした。利用時間は夏と冬で異なりますが、基本的にウィークデーは朝八時から夜九時までとなっています。

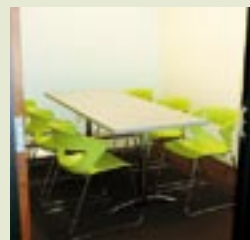
このカレッジは1965年に現バンクーバー・コミュニティカレッジの一部門としてスタートし、1994年に独立したコミュニティカレッジとなりました。カリキュラムが充実し、評判がよく、現在の在籍学生数は八千人に及んでいます。この夏、語学研修で訪れたときは夏休み中でキャンパスは閑散としていましたが、図書館については9月2日の開館に向けた移転準備が静かに、しかし

着々と行われていました。忙しい開館準備の中、管財部長のジェイ・ストラッチャン氏には建物内を詳しく案内していただき、また館長のデービッド・ペパー氏にはその活動や利用状況等についての質問に丁寧に答えていただきました。

新しい図書館は三年越しに完成したキャンパス内の独立した庭付きの建物です。地上三階からなるバリアフリーの建物は地下に三層の駐車場を備えています。この駐車場は雪の多い冬に備え、併設されている保育園にエレベータで行くことができるようになっています。最大の特徴は自然の風を利用した屋上階の窓の開閉による換気装置です。建物内のすべての空気はこの窓から吸い出されて換気されます。ちなみに夏も涼しいカナダですが冷房が良く効いていました。また、冷風は直接体にあたらないよう噴出し口が工夫されていました。暖房もコンクリート内に埋め込まれた温水パイプによる天井からの輻射熱によってなされるとのことでした。館内には多くの閲覧スペースと、講義室、コンピュータ室、少人数グループ討議室(遮音室)、会議室等がそれぞれ複数備えられています。また、直接図書館を利用しない人のための読書、勉強スペースも設けられています。次回語学研修の折には是非利用してみたいと思っています。



▲図書室内の風景



▲少人数グループ討議室

植田敦著

『CO<sub>2</sub> 温暖化説は間違っている』

(169 頁) (ほたる出版)



経営学部 教授  
横山 光伯

今年の夏は猛暑が続いた。多くの人が地球温暖化との関連を想ったことであろう。IPPC の最新報告書では、人間活動によって地球が温暖化している確率を 90% 超とした。ところで私たちは、この「人間活動によって」という部分を、マスコミや一部産業界の喧伝によって「大気中の CO<sub>2</sub> 濃度の増加」とイコールと思い込んではいないだろうか。実は、ことはそれほど単純ではない。

そもそも自然科学で正しいとされている理論のほとんどは仮説なのである。ただし、仮説の確実さにはいろいろな程度がある。きびしい検証に耐えてその正しさがほとんど確かであると認められているものから、すぐに反証があげられて再考をよぎなくされるものまで様々である。環境問題のうち確実とされているのは、今のところ、フロンガスによるオゾン層破壊のメカニズムだけである。地球温暖化については、大気中の CO<sub>2</sub> 濃度が産業革命後に急激に上昇していること、地球の平均気温もまた上昇を続けていること、この二つは観測事実である。しかし温暖化の原因が CO<sub>2</sub> 濃度にあるとする説明は、そう簡単にはいかないのである。

本書の表題が端的に示しているように、著者はいくつかの観測データの解釈に基づいて CO<sub>2</sub> 原因説を真っ向から否定する。そして、簡潔明解な視点から、この世界的規模の思い込みを誘導する背景について批判する。ここで断っておきたいが、私自身は本書の内容を全面的に認める者ではない。著者も「おわりに」で触れている。専門家でない者が不確かな事柄について自分自身で判断する必要を感じたとき、わかり易い異論・反論が参考になる。本書を紹介する所以である。



岩崎光弘 著

『リトミックってなかに  
～リズムの良い子に育てよう～』

(169 頁) (ドレミ楽譜出版社)



短期大学部 講師  
星野 名生規

今から約 150 年前、スイスの作曲家・音楽教育家であったエミールジャックダルクローズは、6 歳のとき、ピアノの先生が彼の母親に「気まぐれにピアノをいじるのをやめさせるように、また音階や私が与えた曲だけを弾かせるように」と勧めるのを聞いたのをきっかけに「子どもは感受性や聴覚能力の発達に応じた音楽教育を受けた後でなければ、ピアノを弾き始めてはならない」という確信を持ち、それをきっかけにリトミックという新しい音楽教育法を考え出しました。既に皆さんもご存知のように学習には、直接的学習と間接的学習があります。日本は、結果がすぐに現れる直接的な学習を重視してきましたので、精神と肉体のバランスが取れていないまま、大人になってしまい、その結果、他国に比べ自らの意思で行動したり、自分で物事を考え出すことができない人が多くなったと思います。リトミックは、心身の調和を図り、それをもとに感覚を磨き、知性の基礎を作り、より発展的能力を身につける教育、つまり人の成長の可能性を大きくする教育、即ち間接的学習で、今すぐ結果が現れないが、年齢に応じて行うことをきちんと体系づけて学習するので、心身と身体がバランスよく育ち、豊かな人間が構築されることになります。

この本は、今もっとも注目されている幼児音楽教育(リトミック)実践者の第一人者である岩崎光弘氏が指導現場からのレポートを多数交えながら、お母さん・指導者にそのノウハウを伝授するために書かれた本です。

私は、一人でも多くの子供達にリトミックを体験してもらいたいと思っています。是非この本を一読していただきたいと思っています。



## 読書ガイド

読書ガイドでご紹介した本は図書館にあります。ぜひ一読ください。

吉野 源三郎 著

『君たちはどう生きるか』

(339 頁) (岩波文庫)



法学部 講師  
萩原 聡央

みなさんが本書の題名を見た時、「難しそうなテーマだな」という印象を受けたかも知れない。しかし本書は、コペル君という15歳の少年が、さまざまな体験を通して精神的に成長していくという展開で物語が述べられていることに加え、誰もが一度は経験した、あるいは経験するであろうテーマを扱いながら叙述されているため、比較的読み易いと思われる。たとえば本書には、コペル君の親しい友人が上級生に暴力を振るわれるが、コペル君は恐ろしさゆえに傍観するのみで友人を助けることができず、友人の信頼を裏切った後悔の念で寝込んでしまうというくだりがあるが、全く同じではないにせよ、少年期にこれと似た経験を持った人は少なくないであろう。

さて本書では、コペル君が「人間分子の関係、網目の法則」というものを考えるが、この「網目の法則」が本書全体を通して重要なキーワードとなる。「人間は、人間同志、地球を包んでしまうような網目をつくりあげたとはいえ、そのつながりは、まだまだ本当に人間らしい関係になっているとはいえない」とし、「本当に人間らしい関係」とは何かをわれわれに問い掛けている。コペル君は「すべての人がおたがいによい友だちであるような、そういう世の中が来なければいけないと思います…そして僕は、それに役立つような人間になりたいと思います」と述べている。このように本書は人間の生き方を問うものであり、人生読本とも言うことができるであろう。

みなさんも、第二、第三のコペル君となって、わたしたちはどのように生きるべきかについて考えてみて欲しい。



小野田 正利 著

『悲鳴をあげる学校』

(175 頁) (旬報社)



人間生活科学部 教授  
伊藤 利明

保護者から学校に対して、さまざまな要求が出されている。

「野良犬が増えたのは、学校のせいだ。給食のせいだ。何とかしろ!」

「今年は学校の桜がまばらで美しくない。これは中学校の教育がおかしいからだ。」

「ウチの子は『箱入り娘』で育てたいから、だれとでもけんかさせるな! そういうことを保証する念書を、園長が書いてよこせ!」

要求の段階として、①要望、②苦情、③イチャモン(無理難題要求)、がある。要望は学校に対する願いであり、学校の守備範囲に属するものである。苦情は学校の守備範囲を超えるものも含み、学校に責任があるとして、匿名で出される。イチャモンは、当事者の努力によっても解決不可能あるいは不合理的な内容を持つものである。さらに、匿名性と権威性が伴う。名前を名乗らず、学校を飛び越えて教育委員会又は文部科学省に要求が持ち込まれる。このイチャモンは5,6年前から急速に増え始め、時には学校不信の構図が見えている。

関西地区のアンケート調査によれば、教員の8割は、イチャモンが増えていると感じている。教員は保護者の対応に追われ、冷静に判断する能力が見失われることもある。学校は教科の指導だけではなく、生徒指導もすることになっているので、子どもの生活にかかわる問題を引き受けざるを得ない。

筆者は「小野田の定理」として、2つ挙げている。①イチャモンは時と人を選ばない。②教職員が子どもと触れ合う時間が減少すればするほど、イチャモンは反比例して増える。後者の定理は、イチャモンに対する解決策の手がかりを与えている。教員が子どもと十分接していれば、たとえトラブルが起きても、解決は容易である。

筆者によれば、イチャモン現象の裏側に本質が隠れて見える。遠足中止に対して電話をしてきた保護者は、イチャモンを突きつけているように見える。しかし、子どもが遠足中止を悲しんでダダをこねていることもある。教員は、子どもに対する対応の仕方を指導することにも気づくべきである。教員は一人で背負わないで他の教員と連携するとともに、コミュニケーション能力を磨くことを忘れてはならない。



## 川口晴 著『犬と私の10の約束』を読んで

短期大学部 井畑 有里絵

**犬の十戒**というものをご存知ですか？これは世界で有名な英語短編詩の一つです。

その内容は、「私にも心があることを忘れないでください」「私が歳をとっても仲良くしてください」「どうか覚えてください、私がずっと貴方を愛していたことを」といった犬から人間へ宛てたメッセージのようなものです。『犬と私の10の約束』というタイトルもこの詩から来ています。私がこの本を読もうと思ったのも、犬の十戒をインターネットで読み、この犬の十戒をテーマにした本があることを知ったからです。

このお話は主人公の家に子犬が迷い込むところから始まります。そして、その子犬を飼うことにした主人公は、母とタイトルにある10の約束をします。そこから、主人公と子犬のソックスとの生活が始まります。ですが、主人公と10の約束をした主人公の母親が亡くなってしまいます。悲しみにくれる主人公を元気付けたのはソックスでした。その後、ソックスと離れ離れになったり、ソックスに励まされたり、父親がソックスを家族と認められるなど様々な出来

事と共に年月が過ぎ、ソックスも段々と年老いていきます。そして最後には永遠の眠りにつきました。

私がこの本を読み終わった後にまず感じたことは、作者のソックスに対する愛情です。本当に大切な存在だったからこそ別れは辛くて、今まで泣いたことの無かった作者が涙を流すほど悲しかったのでしょう。それぐらい作者はソックスのことが大好きで大切な存在であったことがわかります。こんなにも作者に大切に思われていたソックスはきっと幸せな生涯だったと思います。

しかし、そんな作者とソックスとは裏腹に現実ではペットを簡単に捨ててしまう人が沢山います。最近では動物が年老いたから、病気になったから、成長したからといった理由でペットを気軽に捨てたり、保健所へ連れて行く人がいます。そういった人達にこの10の約束を読んで欲しいと思います。そして、ペットは人間にとって道具ではなく、家族だということを理解して欲しいです。



## 青木 和雄・吉富 多美 共著『ハッピーバースデー』を読んで

経営学部 小松原 ひとみ

**この本は、**一般的な家庭が舞台になっており、そこで起こっている母と子、先生と生徒などさまざまな問題を主人公の少女が乗り越え、成長していく物語です。少女の家庭は、父が単身赴任、母は通訳の仕事で忙しく、兄は有名な私立中学に通い、少女はごく普通の女の子でした。そんな兄弟を母は比べ、少女には愛情を注がなかったため少女は、心に大きな傷ができてしまいました。「生まれてこなきゃよかった。」と強く思い、声や感情がなくなってしまう。その傷を癒すため、祖父母に預けられ次第に声や感情が戻っていき、少女

は強い心を持ちました。学校内のいじめや、友達と祖父の死、そして家庭内の壁も乗り越えていくことができました。

少女の歩んだ道のりは、簡単なものではなかったはず。一人では無理だったものの、多くの人に助けられ、乗り越えていくことができました。

私は親になる前に、この本と出会えてよかったです。登場人物、一人ひとりの立場になって考えることで多くのことを学ぶことができました。将来子どもを持つ、多くの人にこの本を読んでもらいたいです。



## 西尾 維新 著『クビキリサイクル～青色サヴァンと戯言遣い～』を読んで

経済学部 光川 真司

**初めて** この本を見たとき、分厚く文字数もとても多く、普段本を読まない僕に読み切れるかどうかわかりませんでした。しかし、読み始めると物語の持つ独特の世界観に引きずり込まれ、あっという間に読み終わってしまいました。

この本は推理小説です。舞台は海に浮かぶ孤島で、そこに世界中から集められた天才たちが生活しています。ただし、主人公は天才ではなく、また探偵でもありません。しかし、凡人であるが故に気づくことをきっかけに、犯人を追い詰めていきます。

話のトリックや犯人の動機が独特で、斬新に感じられました。また、僕がこの本で

考えさせられた言葉があります。それは「世界は優秀に厳しい。世界は有能に厳しい。世界は綺麗に厳しい。

世界は機敏に厳しい。世界は劣悪に優しい。世界は無能に優しい。世界は汚濁に優しい。世界は愚鈍に優しい。」です。確かに無能で愚鈍であるなら、生きている理由や意味、価値などを考えずに、本書に書かれているように平和に、平穩に、平静に一生を終えることができるように思われます。

この本を読んで今まで自分は何も考えずに、ただ漠然と生きてきたけれど、それはそれである意味すごく幸せな人生を送っているのかもしれないと、改めて感じました。



## れい 著『大好きやったんやで』を読んで

法学部 阿部 恭士

### 私が紹介する

『大好きやったんやで』という本は、あるホストと風俗嬢の恋愛模様が描かれた比較的単純な内容構成になっていて、最初「暇つぶしに調度良いだろう」と気軽に読み始めました。

本来、恋愛ネタの小説なんて世の中にいくらでもあって、同じような展開で「面白いのか？」と少し疑っても良いのだけれど、この本は他とは違い、関西弁で書かれているのです。私は、方言で書かれた小説は初めてで、読んでいて飽きず、とても新鮮で自然と感情移入してしまいました。なので「恋愛ネタなんて」と思っている方でも、面白いと感じてもらえると思います。

本自体は、上巻・下巻と分かれていて、上巻では著者であり、主人公である「れい」が「さやか」と出会い、恋人同士になるま

での様々なエピソードが。下巻では、幸せな日々と辛い現実、そして悲しみの別れ…。「れい」と「さやか」

だけでなく、「れい」の弟的存在の「光也」や、先輩ホストの頼もしい「龍さん」との絡みも、この本の醍醐味の一つです。また、この本は「れい」が「さやか」に宛てた手紙という形も添えていて、大切な人を想う気持ちが全体的に出ています。私は、この人を想う気持ちが一番重要で、人にとって必要なものだと感じました。

最後に、実はこの本は「れい」がインターネット上で綴ったものが書籍化され、現在書店で販売されているものです。今、このようにウェブから作品が生まれることは珍しくありません。現代ならではのこのような作品を、皆さんも体験してみたいかでしょうか。



学

生

コ

1

ナ

1



## ■利用していますか？図書館

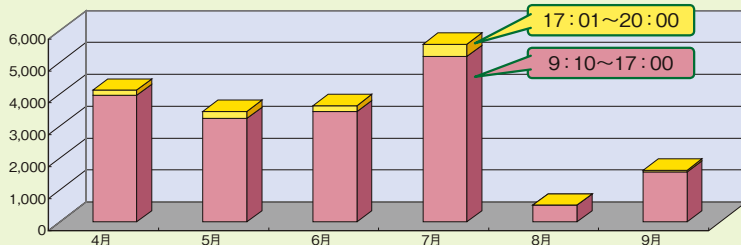
●**図書館資料数** 所蔵している各種の資料は次のとおりです。

2007.3.31調査

図 書	雑誌・紀要等の刊行物	CD-ROM、DVD等の視聴覚資料
333,069冊	1,276誌	3,943点(内、DVD572点)

●**利用状況** 学生の皆さんの平成19年度前期利用状況です。

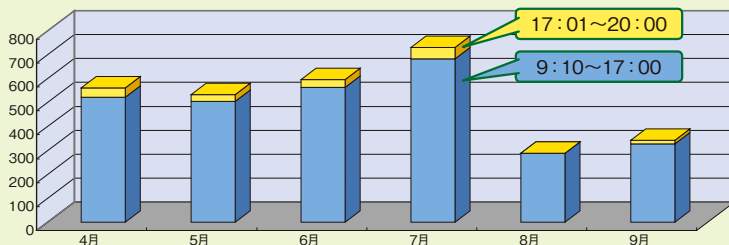
### 入館者数(月別)



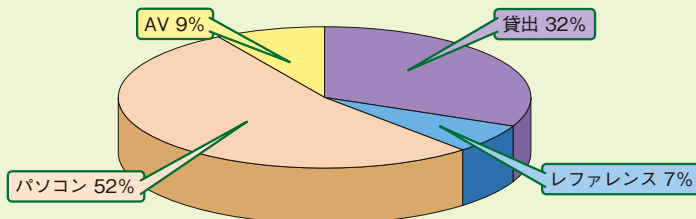
『図書館は知の宝庫』と言われる。しかし皆さんが卒業までに最も多く利用されるのは試験前・試験中、卒論・レポート作成の時。例年試験時の入館者は多く、それに併せて17時以降の利用・貸出冊数・パソコン受付が増加します。しかし、夏期・冬季・春期休業中は、17時まで開館ということもあり、利用が減少します。

長期休業中・土曜日は、平日とは違い静かに集中して勉強ができます。ぜひご利用ください。

### 貸出冊数(月別)



### 受付内容(19年度前期) \*返却はノーカウント



図書館は平日20時まで開館しています。開架書架の資料を手続き不要で利用できるの2階インターネットコーナーは、レポート作成に最適です。以前よりプリンタの台数が増えたことでより利用が多くなりました。

資格関係(教員試験・幼児保育・管理栄養)の図書が約100冊入荷しました。目標を定めて資格にチャレンジしませんか！それには、まず図書館に足を運んでみてください。

## ■図書館の利用について

資料の探し方・卒業論文の作成に必要な検索方法・資料の取り寄せなど、不明なことはサービスカウンターにお尋ねください。グループ・ゼミ単位の利用案内も受け付けています。

図書館だより Vol.54 2007.11

発行所 名古屋経済大学 図書館 〒484-0000 愛知県犬山市樋池 61-22 TEL (0568) 67-3798 (代)  
名古屋経済大学短期大学部 図書館 ホームページ <http://www.nagoya-ku.ac.jp/lib/index.html>  
発行 年2回  
印刷所 株式会社 一誠社 TEL (052) 851-1171